

I T活用総合的な学習科学習指導案

作成者 教育センター指導主事

1. 校 種 小学校
2. 対象生徒 第5学年
3. 教科等 総合的な学習（国際理解）
4. 単元名 国際交流入門（テディベアプロジェクトに挑戦）
5. 単元の指導計画（総時数11時間）
 - 第一次 国際交流ってどんなことをするの？（1時間）
 - 第二次 テディベアに何着せよう（5時間）
 1. 2時 服をコンピュータでデザインしよう
 3. 4時 みんなでデザインを交流しよう
 - 5時 送り出す準備をしよう
 - 第三次 外国からやってきたテディベアに日本を紹介しよう（3時間）
 - 1時 紹介したいことを計画しよう
 2. 3時 デジカメにとって日記につけよう
 - 第四次 帰ってきたテディベアから外国の学校や暮らしの様子を知ろう（2時間）
6. 本時の学習
 - (1) 題 目 国際交流って簡単にできるの？
 - (2) ねらい
国際交流に関心を持ち、交流してみたいという願いを持つ。

【関心意欲態度】

交流のための道具として英語やコンピュータは有効であることを知る。

【知識・理解】
 - (3) I T教材を使う意図
外国の子どもたちと意思を通じ合わせるには英語やコンピュータが有効な道具であると言うことを理解させるために2つの具体的な事例を紹介する。1つは共同で WEB ページの作成を中心とする GVC(グローバルヴァーチャルクラス)と、ぬいぐるみの「留学生」を交換して地域情報を発信するテディベアプロジェクトである。これらはコンピュータを利用した実践例であるので成果物をコンピュータで見せることで理解が深まると考える。
また、台湾の児童が英語で話している動画を見せることで、アジアの国との交流にも英語が必要なことを理解させることができる。
 - (4) 使用ソフト Microsoft 社 PowerPoint2003

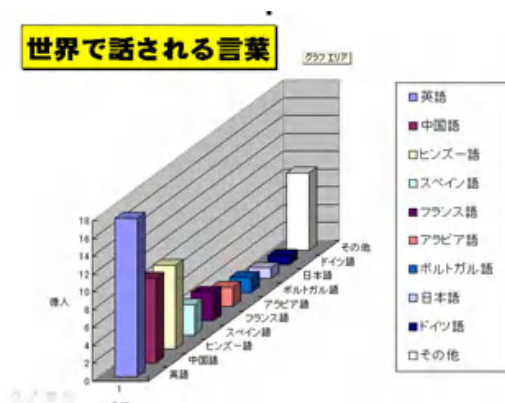
(5) 展 開

欄	学習過程	児童の学習活動	教師の指導・支援	評価規準
10分 導入	1 世界に起きている問題と解決の手段を考える	○世界にはどんな問題が起きているか知る ○解決にはより多くの人の知恵を集めることが必要である	・いろいろな問題を出させうけいれる ・問題を解決するには① ・多くの人の知恵が必要であり、同じ世代の人間がこれから力を合わせていく必要があることを理解させる	
30分 展開	2 英語の必要性を知る 3 交流事例を学ぶ	○どんな言語があるのか ○どんな言語がよく使われているのか ○台湾の児童の英語を聞いてみよう ○GVCで共同でWEBを作る仕組みを知る ○テディベアプロジェクトについて知る	・英語を学ぶ人数は？② ・台湾の児童が英語で話しているビデオを見せる ・台湾の児童の自己紹介ビデオ③ ・世界中の人と友達になるには一番多く話されている英語が有効だと実感させる。 ・GVCの説明④⑤ ・交流校で共通のテーマを決めて学習していくイメージを持たせる 人形のデザインもコンピュータで描くとみんなのデータが使えることを知る ・テディベアプロジェクトの進め方⑥⑦⑧	【知識・理解】 具体的な交流の方法をイメージできる
5分 まとめ	4 これからの活動の見通しを持つ	○日本について紹介したいことを考えて書き出す	・学校のこと、地域のことなど自分たちが自信を持って知らせたいことをノートに書かせる	【関心・意欲・態度】積極的に紹介したいことがかいてある

(6) IT教材の説明



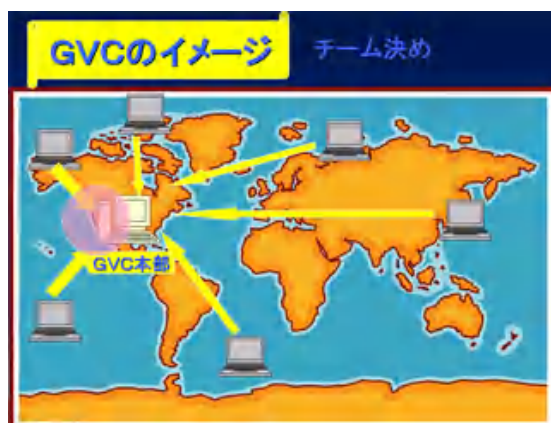
- ①世界に起こる様々な問題を例として4つあげてある。テロ、戦争、地球温暖化、自然災害（ハリケーン）など（時々話題の写真の写真を貼り付けると良い）
- ・自由に児童に発言させる
 - ・世界的な規模で問題となっているものをあげさせる



- ②英語を話すことができる人数を棒グラフで表示。
- ・1番多い英語に興味を持たせる



- ③台湾の児童の話す英語の動画（本教材には入っていません）
- ・台湾では English name を使っていることを見つける
 - ・台湾でも英語を勉強している事実に気づかせる。
- *アジアの小学生が英語を話している映像があると良い)



- ④GVC(グローバルバーチャルクラス) の仕組みと内容についてデータの動きをわかりやすく見せている
- ・インターネットでつながっているとコンピュータ同士で情報をやりとりできる

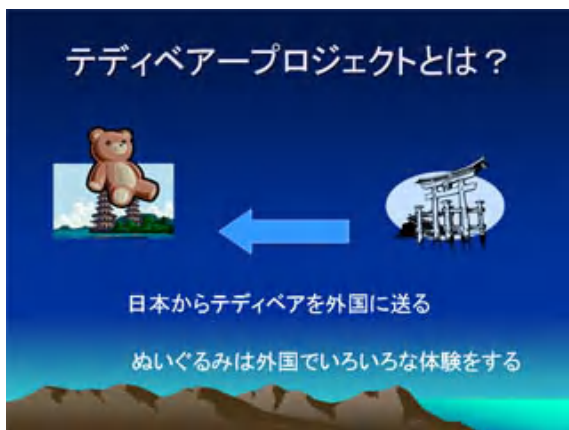
<http://www.virtualclassroom.org/>



⑤実際に作成した WEB ページの例

- 3つの国で共同で実際に作成したwebページの紹介

<http://gvc04.virtualclassroom.org/gvc04c08/>



⑥テディベアプロジェクトの紹介

- ぬいぐるみを「留学生」として情報発信ができることを強調

<http://www.jearn.jp/iEARN/teddyinmie/>



⑦留学生として送る熊のぬいぐるみの服のデザインをコンピュータで描いているところ

- 各自がデザインした服装に加え、他の人のデザインした服装も使用することが可能であることを説明。

- 交流校とも同じソフトを使うことで、共同でデザインすることが可能→協働作業も可能
(コンピュータのスキルアップ)



⑧外国からやってきたぬいぐるみを元に括弧紹介のページの作成

(コンピュータのスキルアップ)